

【試合の流れと競技中における留意事項】

＜ゲーム＞

・赤・青サイドの両者（両チーム）に6球のカラーボールが与えられ、投げる、転がす、蹴るなどしてジャックボール（目標球）にいかに近付けるかを競う。

【開始前】

①競技開始3分前に出場選手数、競技アシスタント数を待機場所で確認し、アシスタントにビブス着用を促す。《専門部員》

②整列場所で使用ボール（マイボール、事務局ボール）のチェックをした後、チーム同士が向かい合って整列し、挨拶をする。《審判》 挨拶は、アシスタントも一緒に行う。

* 1) マイボール持参のチームは監督会議でボールチェックを行う。

* 2) 事務局ボールを選択したチームは事務局ボールで試合を行う。ボールの貸し借りは行わない。

③審判立ち会いの下、じゃんけんで先攻、後攻を決め、赤・青のスローイングボックス内に誘導する。

《審判》

☆じゃんけんで勝ったチームが先攻または後攻を選択できる。

* 1) 赤サイドが1番・3番・5番のスローイングボックスで、青サイドが2番・4番・6番のスローイングボックスで試合を行う。リーダーは3、4のボックスに入る。

* 2) 審判の指示があるまで、ボールを持ってはいけない。

* 3) チームの選手が2名の場合は端のボックスを使用しない。赤は「3と5」、青は「2と4」を使用する。

④選手がスローイングボックスに入ったら、練習（2球）をし、その後競技を開始する。《審判》

* 試合の前に2分間ウォーミングアップの時間がある。しかし、自分のボールを全員投げ終われば、2分経過していなくてもウォーミングアップ終了。

☆5名エントリーのチームは、控え選手（1～2名）も投球練習ができる。

【競技開始】 * 審判は日本語でコールする。

①ジャックボールを投球した選手が、最初のカラーボールの投球をして競技開始となる。

※ジャックボールの投球順（ボックス番号3→4→5→2→1→6）

* 1) ジャックボールがVより手前で止まった場合、またはコートから出てしまった場合は、ジャックボールを投げる権利が移る。

☆ジャックボールは再投球できない。

* 2) 投球時にラインを踏んでしまった場合は、審判が注意をして、再度投球する。投げたボールが他のボールに当たってしまった場合は可能な範囲で復元する。

* 3) 車椅子は、前輪がラインを踏んではいけない。空中はOK（足など）。

②2球目以降の投球については、全てのボールを投げきっていない限り、ジャックボールより遠いボールを投げたサイドの投球となる。

* 1投目と2投目のボールが同距離【赤●○●青】の場合、その状況を作った2投目のチームが次に投球する。（例：1投目：赤、2投目：青の場合→3投目：青・・・その状況を作ったため）

3球が同距離（例：赤2球、青1球）の場合、ボールが少ない方のチーム（例：青）が投球する。

③ジャックボールがコートから出てしまった場合は、ターゲットボックスの中心に置き直す。

④全てのボールは境界線に触れたり超えたりした場合、コートの外に出たものと見なされる。カラーボールの場合は全てデットボールとなる。

⑤得点はジャックボールに近いボール1球につき1点が与えられ、2エンドの終了後、総得点が多いサイドが勝者となる。

⑥ジャックボールから等しい距離に1球ずつもしくはそれ以上の赤・青のカラーボールがある場合、ボール1球につき1点ずつ双方のサイドに与えられる。

* ボールを全て投げていないが、勝ちが決まっている場合は「ノースロー」でもよい。リーダーが決める。「ノースロー」を決める際、審判に現在の得点を確認できる。

* 得点や結果に意義のある場合は、リーダーが審判に申告したり、ボールの位置を確認したりしてもよい。「試合終了」が宣告されると、意義を申し立てすることはできない。

【1エンド終了、または2エンド終了後】

- ①エンドごとに得点記録、ボール回収をする。 <審判> ※得点を記録係に伝える。
- ②エンド間に1分間の作戦タイムを設ける。
*エンド内の選手交代はできない。エンドが終わったら、交代がある場合は交代する。
- ③同点の場合は、リーダーが1球選び、じゃんけんで先攻、後攻を決めターゲットボックスのジャックボールに近い方が勝利となる。(特体連版ファイナルショット制度)
*じゃんけんで先攻をとったチームのリーダーが投球選手を審判に伝える。その後、後攻のチームのリーダーが投球選手を審判に伝える。
(誰が投げても良いが、2エンド終了時のスローイングボックスから選手は移動できない。)
- ④試合が終了したら、主審のコールジャッチを聞いて選手は控室に移動する。 <専門部員>

<ルールおよび留意事項>

【選手について】

- ①競技中はコーチ、アシスタント、控え選手とコミュニケーションをとってはならない。
*サイド内の選手同士であれば相談することができる。
*投球時のみ自分のアシスタントに指示をすることができる。
*選手は審判に要請し、ボールがどのように配置されているかを確認しに行くことができる。
- ②投球時、スローイングラインを足やランプが越えたり踏んだりしてはならない。
- ③投球時、臀部が車いすのシートから離れてはならない。

【ランプ使用について】

- ①ランプを使用した場合、一投目を終えた後、ランプの位置はそのままでよい。
- ②ランプの先端はボックスのラインを越えてはいけない(床から離れていてもNG)。
ただし、左右のラインを越えて隣のボックス内をボールが通過してもよい。

【アシスタントについて・・・*1：ランプオペレーター、*2：スポーツアシスタント】

- ①選手へのアドバイスや合図を送ることはできない。
- ②相手の競技中に車いすやランプの調整、ボールを丸めるなどの投球準備をしてはならない。
- ③選手や車いす等の位置調整、ボールの手渡し、ランプの位置調整を行うことができるが、いずれも選手発信の要望に対応しなくてはならない。
- ④ランプを使用する場合、ランプオペレーター、スポーツアシスタントともにボックスからはみだしてはならない。ただし、左右のラインを越えて隣のボックス内をボールが通過してもよい。
- ⑤ランプオペレーターはランプの位置や方向を決めるために、投球前に左右のボックスに入ってもよいが、投球時は自分のボックス内から出ないこと。
- ⑥ランプオペレーターは、投球前にコート(ボール等)の様子を確認することはできない。
投球後、試合状況を見る為、プレイングエリアを振り返ってもよいが、アドバイスすることはできない。なるべくボックスからでないように気を付ける。

【●視覚障害のある選手への支援とアシスタント(①プレイングエリア内アシスタント：プ

②ボックス内アシスタント：ボ=スポーツアシスタント)の動きについて：特体連独自ルール】

- ①ジャックボールまでの距離や方向を支援するため、声や手拍子による合図を送ることができる。また、投球後のボール状況を伝えることができる。(プ) *ボックス内アシスタントとの重複不可。
- ②ジャックボールやカラーボールの位置関係をコート内に入って状況確認したり、ホワイトボードを利用してボールの位置関係を確認したりできる。(ボ) *複数ボックス対応
*投球する選手がコート内で状況確認する際、チーム内の他のメンバーも一緒にコートに入り、情報を共有したり、戦略を確認したりしても良い。
- ③プレイヤーからの意思表示を受け、ジャックボールへ正対する方向への支援ができる。(ボ)
- ④ボックス内のラインが分かるように、足下にマットや紐などを設置できる。(ボ)